



事業実績報告書

様式 2
(2020年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	E - 12	講座名	水の歴史資料館で学ぶ 名古屋の下水道と大雨・防災
記載日	2020/9/10	団体名・企業名	名古屋市上下水道局 調査課 水の歴史資料館
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>日本で最初に活性汚泥法による下水処理を始めた名古屋の下水道。私たちが使った水(汚水)をきれいにして、川へ戻すという、水環境、水循環のシステムを守るという役割の他にも、大雨による浸水からまちを守り、私たちの安心・安全な生活を確保するといった大切な役割を果たしています。こうした下水道の仕組みについて、下水道と大雨・防災に関する座学や施設見学などを通じて、学習でき、自助・共助の防災力アップも期待できる講座としました。</p>			
			
※写真1の説明		※写真2の説明	
第1回 下水道の役割 講義風景		第3回 災害時のトイレ対策 館内説明風景 震災用マンホールと下水道直結式仮設トイレ	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>参加者が、学習意欲の高い高齢者や家族連れで、運営者側からすると、やりがいのある講座となっている。3回の連続講座とすることで、下水道事業全体を俯瞰できる構成となっている。新型コロナウイルス感染症の予防対策として、定員を縮小したり、現物を手に取っての作業実習を見合わせたりしたが、講義のやり方などを工夫し、参加者には、従前と変わらないだけの内容の講義を提供できた。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容が難しいので、10歳以上に限定すべき。スライドの文字が小さく、説明している箇所がわかりにくいところがあった。(第1回) ・ 親子で水害のしくみを知り、身近に感じることができた。子供が将来の防災を意識するのに役立った。水に関する仕事をしたり、住宅を買う時の知識としてもとてもいい学びになったと思う。(第2回) ・ 被災地のトイレの話は、台風が接近している時に聞けてためになった。内容がわかりやすかった。(第3回) 			